

東朋会便り

礎と絆の継承

東朋会理事長
高萩 富夫

福東OB会創立20周年おめでとうござい
ます。

これまで諸先輩方が築いてこられたOB会の礎と絆を継承され、斎藤会長を中心に実直な活動を続けられていることに、改めて心からの敬意を表します。

私事で恐縮ですが、在職中に小高工場で三ヶ月近く出張勤務したことが懐かしく思い出されます。当時最新の自動化設備とクリーンルーム設備を導入し、海外向け携帯電話のパーツ量産化プロジェクトに一役携わる、貴重な体験をさせて頂きました。短い間でしたが、初めて接する福島



東朋会事務所にて

の方達の温かい人情にも触れました。滞在した駅前旅館のご主人と女将さんが、会社の先輩の紹介ということでも、まるで家族の一員のように温かく接して下さいました。同じ時期に逗留していた工事業者の方から出勤前に海釣りに誘われ、真つ暗闇のテトラポットが並ぶ浜で、波の音を頼りに沖に向かって竿を振り、釣れた魚(主にイシモチ)を女将さんが、塩焼きにして朝食に出してくれました。夕食は何が食べたいか?と尋ねられ「ウナギ」というとそれを夕食に出して頂いたこともありました。休日になると、会社の陶芸クラブの先輩達と相馬焼の窯元を訪ね、ロクロを回して焼き物作りを体験。隣の浪江町を流れる請戸川では、海から遡上するサケを地元漁師が投網で捕り、鍋にして屋台で食べさせてくれました。バイクツーリングで名所旧跡を訪ねたことも楽し

い思い出です。また、相馬野馬追祭の会場の馬事公苑では、二頭の馬を自宅で飼っている会社の方にお会いし、野馬追祭りの話を熱く語ってくれました。先祖代々から伝わる伝統の行事を守り、後世に伝える地元愛を強く感じたものでした。

米どころ福島は、日本酒の名産地で、阿武隈山地の水と盆地が育むお米や果物もブランド化され、海・山・川の恵みを余すことなく全国に提供してくれているのは、自然と共生した勤勉な県民性からなのでしょう。東日本大震災から12年の歳月が経ちましたが、復興へ向かって弛まぬ努力が、これからも求められていくことと思えます。今、都会から福島に移住する若い人が、毎年増加しているとのこと。生活様式が多様化している現代、行政と地元が一体となつて取り組むことでこれからも新しい福島に生まれ変わっていくこと

創立20周年を祝つて

東朋会前理事長
久玉 輝美

福東OB会の発足されました20年昔、私はトヨコム無錫工場勤務中でした。その頃、福島空港発のチャーター機で中国直行便がで

き、定年になられましたが、故大根田庸さんが無錫に周遊に來られ、異国で当時の定年退職者状況などをお聞きしました。また、故時政大典さんがその頃所用で無錫に來られましたので当地で定年後の仲間話を論議した覚えがあります。さらに2、3年後齋藤勝則さんがエプソン蘇州の工場長として赴任され、中国でエプソンと東通の違いなどについてお聞きしました。奇しくも、この3名の方々が福東OB会の会長を引き次いで來られたと聞いております。今や150名以上の会員を抱えた会に発展され、創立20周年を迎えられたとのこと、心から祝福申し上げます。

福東OB会の活動は年2回ほど発行されている会報「きびたき」に、会員の方々の現況紹介や趣味、旅行記など載せられ面白く読ませて頂いています。OB会主催の旅行や総会、女子会などで会員交流を深めていると聞いています。また東北労金やこくみん共済とのタイアップも熱心に行われて、会員の為になつていくことと察しています。



東朋会イベントにて

保原工場時代、休日は近くの温泉やゴルフを楽しみました。うれしかったことに芭蕉が作った「奥の細道」の俳句碑が福島で見られたことです。

最後に、これまで福東OB会の皆さんにお世話になったことへのお礼と、会の益々の発展を期待しています。